

委員會ノ名稱
物資動員委員會

委員長
産業部長

委員
關係各廳高等官
及企畫院高等官

幹事
企畫院高等官

備考

幹事ニハ必要ニ應ジ關係各廳高等官ヲ加フ

(三) 勞務動員委員會及交通電力動員委員會ノ組織ハ左記ニ依ル

委員會ノ名稱
勞務動員委員會

委員長
企畫院內政部長

委員
關係企畫院參與
又ハ關係各廳高等官

幹事
企畫院高等官

交通電力動員委員會

交通部長

同右

同右

備考

幹事ニハ必要ニ應ジ關係各廳高等官ヲ加フ

(四) 貿易統制委員會及資金統制委員會ノ組織ハ左記ニ依ル

委員會ノ名稱

貿易統制委員會

資金統制委員會

委員長

企畫院次長

同
右

委員

關係各廳勅任官
並=企畫院財務
部長及企畫院產
業部長

關係各廳勅任官
及企畫院財務部
長

幹事

關係各廳高等官及
企畫院高等官

同
右

閣甲 二六八

昭和十三年十一月九日

昭和十三年十一月一日

内閣書記官長



内閣書記官



内閣總理大臣 変

法制局長官

外務大臣

陸軍大臣

文部大臣

逓信大臣

厚生大臣

内務大臣

海軍大臣

農林大臣

鐵道大臣

大藏大臣

司法大臣

商工大臣

拓務大臣

賞勳局官制中改正ノ件 起案上申ス依テ

別紙ノ通閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

二六六

別紙ノ通

法
帝
局

朕賞勳局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十三年十一月八日

内閣總理大臣

勅令第七百九號

賞勳局官制中左ノ通改正ス

第二條中「屬 專任六人」ヲ「屬 專任七人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

勳章年金ノ事務ニ合セテ恩給金庫監督等ノ事務ニ従事セシムル爲屬一人經常職員トシテ増員ノ必要アルニ由ル

参照

参照

◎賞勳局官制

明治二十六年十月三十一日
勅令第百十六號

(總理大臣
副署)

朕賞勳局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

賞勳局官制(抄)

第二條 賞勳局ニ左ノ職員ヲ置ク

- | | | |
|-----|------|----|
| 總裁 | 一人 | 勅任 |
| 書記官 | 專任二人 | 奏任 |
| 屬 | 專任六人 | 判任 |

内閣

参照

昭和十三年度大藏省所管豫算

歳出經常部

第二款内閣

第一項俸給

第三目判任俸給

第一節 屬

一〇七、六九三円

專任定員百七十人、内百回人及増加見込人員九人計百十三人、
俸給一人平均年額九百八十五圓但内三人ハ九月分五人ハ五月分

恩給金庫監督ニ關スル經費

雜費	雇員給	給與	内國旅費	廳費	判任俸給	内閣	
一一五	三五〇	三五	一六六	二二九	四一〇	一三〇五	十三年要求額
〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	
							備考 自十三年十一月 至十四年三月分

内閣

恩給金庫監督ニ關スル經費

科目	年	額	備考
内閣	二九六	〇〇〇	昭和十四年度以降
判任俸給	九八五	〇〇〇	
廳費	四一〇	〇〇〇	
内國旅費	四〇〇	〇〇〇	
給與	八四	〇〇〇	
雇員給	八四〇	〇〇〇	
雜費	二七七	〇〇〇	

内閣

説明

賞勳局屬定員ハ經常六人臨時十二人、其ノ配置ハ別表ノ如クニシテ屬定員不足ノ爲年金係主任ハ數年來他ノ係主任ヲシテ兼務セシメ來リシガ恩給金庫ノ設立セラレタルニ伴ヒ之ガ業務ニ付諸報告ヲ檢閲シ各種照會ニ對シ迅速ニ調査回答スルノ要アリ之ガ爲從來ノ如ク主任ノ兼務ヲ許サザルニ至リタリ、依テ屬一人増員セントス

昭和十三年十月現在屬配置表

特別敘勳係

庶務課	庶務係	屬一
會計係	會計係	〃二（臨時支那事變二人）
年金係	年金係	定例敘勳主任兼務
敘勳者名簿係	敘勳者名簿係	屬一
淨書校正係	淨書校正係	敘勳者名簿係主任兼務
審査課	審査課	
定例敘勳係	定例敘勳係	屬一
外國勳章係	外國勳章係	〃一
褫奪係	褫奪係	〃一
褒賞係	褒賞係	〃三（臨時滿洲事件三人）
特別行賞係	特別行賞係	〃一
事變行賞係	事變行賞係	〃七（臨時滿洲事件三人、支那事變四人）
計		一八人

内閣

附 記

法 制 局

一 昭和十三年勅令第三百九十六號賞勳局官制中改正ノ件ニ添附シ置キタル局定員配置ト本件添附ノ昭和十三年十月現在局配置表トヲ比較シ異ル點ニ付概言スレバ左ノ如シ。

(1) 前同資料ニ於テハ觀察係ト年金係トハ屬一名ヲシテ其ノ主任ヲ兼ネシメタルガ本件資料ニ於テハ年金係ト定例敘動係トノ間ニ兼務ヲ爲サシム。理由ハ具體的人操ノ便宜ニ外ナラズ。

(2) 定例敘動關係ノ事務ハ別添資料ニ示ス如ク相當ノ事務量ヲ示シ(右事務ノ一月間ニ於ケル分量最近ニ於テ激増ヲ示シ居ルハ事變中敘動加算ニ依リ定例敘動ノ件數増大セルニ因ル)之ト年金關係ノ事務(事務量及内容区分ニ付テハ別添資料參照)トヲ屬一人ヲシテ兼掌セシムルハ明カニ失當ニシテ事口從來ノ通觀察係及年金係ノ間ニ兼務ヲ認ムルノ妥當ナルコト否ミ難シ。

(3) 然レドモ觀察關係事務モ亦實質上相當ノ複雑性ヲ示シ事務量(別添資料參照)稍閑ナルガ如クニシテ照會往復調査等事務内容ニ於テハ意外ニ手數ヲ要スルモノ多々存シ殊ニ最近ノ如ク勳章受有者數暴増スルノ趨勢ノ下ニ於テハ從來ノ如ク之ト年金繼受ノ調査等ノ事務トヲ屬一人ノ兼掌ト爲スコト困難ト爲レリ。

二 加之最近恩給金庫法ノ施行ニ伴ヒ勳章年金ヲ擔保トスル貸付ニ關シテハ其ノ監督事務ハ實質上賞勳局ノ行フ所(例セバ同法第三十二條ノ規定ニ依リ報告ヲ徵スル等)ト爲リ年金係ノ

内 閣

事務ハ益々繁多ヲ加フルノ情勢ニ在リ旁々年金係ニ事務ノ屬一人ヲ増員スルハ時宜ニ適スルノ措置ト認メラル。

(尙賞勳局屬中目下應召中ノ者四名アリ。右内譯ハ庶務係屬一名、會計係屬一名、事變行賞係屬二名。)

參照 局配置比較表

課別	係別	前同資料	本件資料
庶務課	庶務係 會計係 年金係 勤勤者名簿係 淨書校正係	一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	一 二(臨時、支那事變) 一(前同臨時ヲ經常ニ振替フ)
審査課	定例勤勤係 外國勤勤係 褒賞係 特別調査係	一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	一 三(臨時、滿洲事變) 一(臨時行賞係) 七(臨時支那事變) 三(滿洲事件) 四
計		一二	一八(内一二臨時)

内閣

定例係事務内容

定例係事務日割

自十六日
至十八日

書類受付（整理及統計）

自十九日
至二十二日

進級ピラ書（各省名簿）

二十三日

進級ピラ整理（各等別）

自二十四日
至二十六日

上奏名簿進級分作成（初級申達名簿カード係廻送）

自二十七日
至二十九日

上奏名簿初級分作成（進級申達名簿カード係廻送）

内閣

自三十日
至三十一日

上奏名簿校正

翌月一日

字格、異動、同名有勳者、各省照會

自二日
至四日

議定官後上奏（官報原稿作成）

自五日
至六日

官報原稿校正

七日

裁可後發表

自八日
至十一日

履歷書整理（上奏名簿順）

内閣

十二日

勳記番號記入

十三日

カード係勳記番號名簿及履歷書廻送

自十四日
至十五日

書類受付準備（各關係書類調査）

上奏名簿、申達名簿、履歷書ハ適宜製本ノ事

内閣

昭和十二年年度定例叙勳取扱数

十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月	定例叙勳取扱数	死亡叙勳取扱数	取消叙勳
一、七四八	一、四九九	一、三八七	一、四一三	一、四八五	一、四〇八	一、二〇〇	一、四六三	一、三四三	一、二〇八	一、三三一	一、六一四			
一〇	一〇	五	四	四	二	九	五	四	二	六	九			
六				二										

内閣

昭和十三年年度定例敍勳取扱數

十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月	定例敍勳取扱數	死亡敍勳取扱數	取消敍勳
		七、六三六	四、四七五	三、〇八一	二、一四九	一、九一〇	一、九六八	一、七七四	二、〇〇〇	二、〇七四	二、四一五			
		八	九	七	四	六	六	九	一一	九	五			
		七	一	二	五	九		三						

内閣

褫奪係事務
内容

褫奪係處理件數

十二年度

十三年度
(半年分)

細則一條一項申牒書審查	六三〇	三五〇
細則三條二項申牒書處理	六〇五	三六〇
褫奪辭令及褫奪狀作成	五八五	一三九
戒告通牒作成	二三二	二一一
物件處理	二一七七	一六七二
照會處理	一三五	二六七
素行調査	四八三	四三五
原簿作製	八一七	三七七
雜	七二	五〇
計	五七三六	三三六一

一人一日
處理件數

七

事務
年
金
係

十二年

十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月	年 種別
八五	一〇二	八五	九二	二〇六	三一七	一九五	二一三	八一	一一〇	二〇七	二四六	受 (遞受ヲ含ム)
二八二	二三五	一八〇	五五	一二四	六九	二〇二	二〇五	二二〇	一一九	一一一	九六	處
一	一	二	二		七	二	三		三	四	四	受 再授
九		一〇							一四		一五	處 受 照會
一四二	一九七	九五	一二八	六一	一〇七	一五一	一〇七	七八	一二四	一四二	一〇三	處
												受 還納
												受 改氏名
一		六		五	一三	三	二	六	五		九	處 承認書
												受 訂正
												受 更正
			金 一							一		處
三七	三六	三	一七	三二	二四	一〇七	八三	一七一	三八	五三	二五	受 返戻
旭 三	旭 二〇	金 一 五 九	金 一 一	金 一 一	金 一 一	金 一 四	金 一 六 五	金 一 〇 九				受 新規 下賜

賞
勳
司

																					計
																					一九三九
																					一八九八
																					二九四八
																					二四八五
																					五〇
																					二
																					六三七
																					金 四三九
																					税 四

賞 銀 尾

日本標準規格B5 (十四行罫)

事務處理順序

一 繼受、遞受

調査（返戻）、名簿作成、決裁—裏書、處理簿並カード整理

一 再授

調査照會、計算、一覽表作成、決裁、貯金局並本人通知、證書作成

一 還納

調査、決裁、整理（御紋章等打抜）

一 改氏名

カード記入

一 更正

調査、新證書作成、貯金局送付、發行通知

一 氏名訂正

調査、決裁、陸軍省並貯金局通知、カード記入

一通牒、照會、回答（面會モ含ム）
一年金證書新規下賜通牒
校正、貯金局送付

内
閣

恩給金庫
関係事務

恩給金庫関係事務月別表

一 二 四	受理數	七 月
	處理數	
一 〇 七	受理數	八 月
	處理數	
二 八 七	受理數	九 月
	處理數	
二 九 一	受理數	十 月
	處理數	
四 七 二	受理數	十一 月
	處理數	
二 二 四	受理數	十二 月
	處理數	
三 二 五	受理數	一 月
	處理數	
四 一 九	受理數	二 月
	處理數	

内
閣

恩給金庫關係事務處理順序

一 調 査

一 臺帳記入

受付年月日、功級、番號、官職氏名、貸付金額、貸付年月日
完済豫定日並期間

一 申告書へ官職記入

一 カード記入

一 申告書整理

一 名簿作成

一 供 覽

内
閣

同
佐藤

三年十月二十七日

賞勲局總裁下條康磨



内閣總理大臣公爵近衛文磨殿

恩給金庫監督等ノ事務ニ從
事スル為賞勲局ニ經常職員
ヲ増置セラレ度別紙勅令案ヲ
具シ此段内申ス

閣甲二六八

三内
三

朕賞勳局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和 年 月 日

内閣總理大臣

勅令第 號

賞勳局官制中左ノ通改正ス

第二條中「屬 專任六人」ヲ「屬 專任七人」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

内閣

理由

勳章年金ノ事務ニ併セテ恩給金庫監督ノ事務ニ従事セシムル爲經常職員トシテ屬一人増員ノ要アルニ由ル

内閣

濟

二十七

閣甲第三六一號

起案

昭和十三年七月十日

裁可
十三年七月十日

施行

十三年七月十二日
指令

內閣總理大臣



內閣書記官長



內閣書記官



別紙對滿事務局總裁同關東州重要產業統制令ニ關シ同總裁代決ニ關スル件
左ノ通指令相成可然哉

指令案

本月七日滿殖第一〇七八號同關東州重要

日

月

産業統制令ニ關スル件伺ノ通

但シ重要ナルモノハ本大臣ノ決裁ヲ經

ズシ

十二月十二日指令

滿殖第一〇七八號

昭和十三年十二月七日

對滿事務局總裁 板垣 征四郎



內閣總理大臣公爵 近衛 文麿 殿

關東州重要產業統制令ニ關スル件

曩ニ關東州重要產業統制令ノ實施ニ當リテハ之ガ運用ニ付日滿產業
 統制上内地產業トノ連繫保持ヲ圖ル要大ナルモノアリト認メラレタ
 ルヲ以テ特ニ對滿事務局總裁ヨリ滿洲國駐節特命全權大使宛別紙寫
 ノ通依命通牒致置候處右通牒ニ基ク內閣總理大臣宛稟申事項ハ最近
 増加セルモ其ノ内容ハ比較的輕微ト認メラルルモノ多キニ鑑ミ右通
 牒ニ基ク稟申事項ノ取扱ニ關シテハ南滿洲鐵道株式會社並滿洲電信

重要事項
 モーハ別紙
 トスル
 ト別紙

寫

別紙

滿殖第三六九號ノ二

昭和十二年八月二十七日

對滿事務局總裁

滿洲國駐劄特命全權大使 殿

關東州重要産業統制令制定相成候處右ノ運用ニ當リテハ左記ノ通御取扱
相成度依命此段及通牒候也

記

第一 左ニ掲グル産業ニ付關東州重要産業統制令第七條ノ規定ニ依ル命
令並ニ第三條、第四條、第九條及第十條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲サント
スルトキハ豫メ內閣總理大臣ニ稟申スルコト日滿産業統制上重要ナル

內閣

關係アル事項ニ付命令又ハ處分ヲ爲サントスルトキ亦同シ

一 セメント製造業

二 製鹽業

三 ソーダ製造業

四 硫酸アンモニア製造業

第二 左ニ該當スル場合ハ其ノ都度内閣總理大臣ニ報告スルコト

一 第一ニ掲グルモノヲ除クノ外關東州重要産業統制令第七條ノ命令

並ニ第三條、第四條、第九條及第十條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタル

トキ

二 關東州重要産業統制令附則第三項ノ規定ニ依ル許可ヲ爲シタルト

キ

- 三 關東州重要産業統制令施行ニ關スル局令及局告示ノ制定改廢
- 四 關東州重要産業統制令施行規則ニ定ムル罰則ノ適用アリタルトキ
- 第三 關東州重要産業統制令附則第二項ノ重要ナル産業ヲ營ム者ニ付テハ左ノ事項ヲ報告スルコト
 - 一 營業者ノ氏名、住所並ニ營業所及工場ノ位置
 - 二 重要ナル産業ノ種類
 - 三 生産ノ設備及能力

以上

内
閣

寫

朕關東州重要産業統制令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十二年八月二十六日

内閣總理大臣

勅令第四百六十號

關東州重要産業統制令

第一條 本令ハ關東州ニ於ケル重要ナル産業ヲ統制シ以テ其ノ健全ナル
發達ヲ圖リ經濟ノ圓滑ナル伸展ヲ期スルコトヲ目的トス

第二條 本令ノ適用ヲ受クル重要ナル産業ノ種類ハ左ニ掲グルモノトス
製鋼業

アルミニウム製錬業

マグネシウム製錬業

自動車製造業

内閣

航空機製造業
兵器製造業
計器製造業
綿絲布紡織業
麻紡織業
毛織物製造業
小麥粉製造業
植物性油類製造業
石油製造業
無水アルコール製造業
セメント製造業
製塩業
ソーダ製造業
硫酸アンモニア製造業
火藥類製造業

マツチ製造業

煙草製造業

前項ノ重要ナル産業ノ範圍ニ關シ必要ナル事項ハ滿洲國駐劄特命全權大使之ヲ定ム

第三條 重要ナル産業ヲ營マントスル者ハ大使ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ヲ受クベシ

第四條 重要ナル産業ヲ營ム者左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲サントスルトキハ大使ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ヲ受クベシ

一 統制協定ノ締結又ハ變更

二 生産ノ設備又ハ能力ノ變更

三 事業ノ全部又ハ一部ノ讓渡

四 法人ノ合併

第五條 重要ナル産業ヲ營ム者ハ大使ノ定ムル所ニ依リ事業年度毎ニ事業ノ計畫及管績ヲ大使ニ届出ツベシ事業ノ計畫ヲ變更シタルトキ亦同

第六條 重要ナル産業ヲ營ム者左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ大使ニ届出ヅベシ

一 統制協定ノ廢止

二 事業ノ全部又ハ一部ノ廢止又ハ休止

三 法人ノ解散

第七條 大使ハ重要ナル産業ヲ營ム者ニ對シ其ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第八條 大使監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ重要ナル産業ヲ營ム者ノ事務所、營業所、工場、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務若ハ財産ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

第九條 大使ハ統制上文障ナシト認メタルトキハ其ノ定ムル所ニ依リ重要ナル産業ヲ營ム者ニ對シ第四條及第五條ノ規定ニ依ル義務ノ一部ヲ免除スルコトヲ得

第十條 重要ナル産業ヲ營ム者本令若ハ本令ニ基キテ發スル命令又ハ之

ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ大使ハ其ノ業務ヲ停止シ、制限
シ又ハ第三條ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十一條 大使ハ本令ニ規定シタル其ノ職權ノ一部ヲ命令ヲ以テ關東州
廳長官ニ委任スルコトヲ得

附 則

本令施行ノ期日ハ大使之ヲ定ム

本令施行ノ際現ニ重要ナル産業ヲ營ム者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモ
ノト看做ス

本令施行ノ際現ニ締結セラレタル統制協定アルトキハ第四條ノ規定ニ拘
ラズ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ大使ノ許可ヲ受クベシ

ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ大使ハ其ノ業務ヲ停止シ、制限
シ又ハ第三條ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十一條 大使ハ本令ニ規定シタル其ノ職權ノ一部ヲ命令ヲ以テ關東州
廳長官ニ委任スルコトヲ得

附 則

本令施行ノ期日ハ大使之ヲ定ム

本令施行ノ際現ニ重要ナル産業ヲ營ム者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモ
ノト看做ス

本令施行ノ際現ニ締結セラレタル統制協定アルトキハ第四條ノ規定ニ拘
ラズ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ大使ノ許可ヲ受クベシ

既往ニ於ケル稟申事項

對滿事務局受理
月 日

ソーダ工業設備擴張ニ關スル件

(滿洲曹達會社) 昭 一三七八

關東州重要産業統制令第四條第二號ニ依ル

生産設備及能力ノ變更許可ニ關スル件

(東洋拓殖會社) " 1011

關東州重要産業統制令第四條第二號ニ依ル

生産設備變更許可ニ關スル件

(大日本塩業會社) " 1115

關東州重要産業統制令第四條第二號ニ依ル

生産設備變更許可ニ關スル件

(大日本塩業會社) " 1118

關東州重要産業統制令第四條第二號ニ依ル

生産設備變更許可ニ關スル件

(旅順市武田政吉ノ塩田擴張) " 1128

内 閣

既往ニ於ケル稟申事項

對滿事務局受理
月 日

ソーダ工業設備擴張ニ關スル件

(滿洲曹達會社) 昭 一三七八

關東州重要産業統制令第四條第二號ニ依ル

生産設備及能力ノ變更許可ニ關スル件

(東洋拓殖會社) " 1011

關東州重要産業統制令第四條第二號ニ依ル

生産設備變更許可ニ關スル件

(大日本塩業會社) " 115

關東州重要産業統制令第四條第二號ニ依ル

生産設備變更許可ニ關スル件

(大日本塩業會社) " 1128

關東州重要産業統制令第四條第二號ニ依ル

生産設備變更許可ニ關スル件

(旅順市武田政吉ノ塩田擴張) " 1128

内閣

滿洲電信電話株式會社ノ監督ニ關スル事項中
對滿事務局總裁代決事項等ノ件

昭和十一年二月十九日決定同年
三月三日內閣甲第一〇號內閣
總理大臣ヨリ對滿事務局總裁宛
通牒

滿洲電信電話株式會社監督ニ關スル代決事項等ノ件

第一條

滿洲電信電話株式會社ノ業務監督ニ關シ對滿事務局總裁ハ

左ノ事項ニ付テハ之ヲ代決シ內閣總理大臣（以下大臣ト稱ス）ノ
名ヲ以テ施行スルコトヲ得

一 滿洲電信電話株式會社業務監督規程（以下電電監督規程ト稱
ス）第一條第三號ニ依ル會社職制ノ變更ノ認可

二 電電監督規程第一條第七號ニ依ル社債ノ募集及株金拂込ノ認

可

三 電電監督規程第一條第十四號ニ依ル顧問ノ選任又ハ解任ノ認

可

四 滿洲電信電話株式會社事務規程第二條ニ依リ大臣ニ稟申アリ

タル事項但シ電電監督規程第二條第六號及同第七號ノ投資及債

務保證ニ關シテハ其ノ額百萬圓以上ノモノヲ除ク

第二條 前條ノ代決事項ト雖其ノ事態稍重キモノハ大臣ノ決裁ヲ經

ベシ

以上

南滿洲鐵道株式會社監督ニ關スル事項中對
滿事務局總裁代決事項等ノ件

昭和十一年六月三十日決定
同日內閣甲第七號內閣
總理大臣ヨリ對滿事務局總
裁宛通牒

南滿洲鐵道株式會社監督ニ關スル代決事項等ノ件

第一條

南滿洲鐵道株式會社ノ業務監督ニ關シ對滿事務局總裁（以

下總裁ト稱ス）ハ左ノ事項ニ付テハ之ヲ代決シ內閣總理大臣（以

下大臣ト稱ス）ノ名ヲ以テ施行スルコトヲ得

一 南滿洲鐵道株式會社業務監督規程（以下滿鐵監督規程ト稱ス）

第一條第二項第一號ニ依ル役員退職手當標準額變更ノ認可

二 滿鐵監督規程第一條第二項第二號ニ依ル社債ノ募集又ハ株金
拂込ノ認可

三 滿鐵監督規程第一條第二項第七號ニ依ル會社ノ義務負擔ノ認可

四 滿鐵監督規程第一條第二項第八號ニ依ル社外投資ニシテ金額壹千萬圓以下ノモノノ認可

五 滿鐵監督規程第一條第二項第九號ニ依ル債務保證ニシテ金額五百萬圓以下ノモノノ認可

六 滿鐵監督規程第一條第二項第十號ニ依ル職制ノ認可但シ職制ノ全般的更改ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

七 滿鐵監督規程第一條第二項第十一號ニ依ル關係會社ニ關スル認可

八 南滿洲鐵道株式會社ニ關スル事務規程（以下滿鐵ニ關スル事務規程ト稱ス）第二條第一號ニ依ル會計ニ關スル規定、營業ニ

關スル規定及社員ノ給與ニ關スル規定ノ認可ニ付テノ指令

九 滿鐵ニ關スル事務規程第二條第二號ニ依ル關係會社ニ對スル
認可ニ付テノ指令

第二條 前條第四號ノ投資ニシテ日滿經濟統制、外交政策又ハ通商
政策ニ重要ナル關係アルモノ及其ノ他ノ代決事項ニシテ其ノ事態
稍重キモノハ大臣ノ決裁ヲ經ベシ

以
上